様式3

令和4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立宗像中学校

学校番号 中3

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	(1)校訓「質実剛健　自彊不息」を体現するため、学習活動・学校行事等において生徒の主体性を重視しつつ、幅広い教養の獲得を促す教育活動を推進する。 (2)激しく変化し、多様化する社会に柔軟に対応するため、人権感覚を高め、高い人権意識に基づく全教科全領域での人権・同和教育と道徳教育の充実を図る。 (3)6ヶ年を見据えた中高一貫教育充実のため、職員間の協働性と課題解決に向けた実行力を高め、柔軟性を持って新たな教育活動を模索・実践する。	評価（総合）
昨年度の成果と課題	成果としては、Ⅰ期生に続きⅡ期生の進路実績からも、これまでの進路指導と教育課程に一定の評価がなされ、生徒の実態に即したものになっていると考えている。コロナ禍にあって教育計画の変更を余儀なくされたが、探究活動、言語活動、体験活動を柱とした特色ある教育課程の改善をすすめることができた。 今後は、キャリア育成計画「未来を拓く18歳」を練り上げていくとともに、内進生としての学力定着を図る習熟度講座に取り組んでいきたいと考えている。また、中高一貫教育校としての魅力を発信するために、定期連絡や学習活動の様子をホームページ上で紹介して本校の指導力をアピールしていきたい。	A

年度重点目標	具体的目標
宗像中学校としての自彊不息の学習指導と授業改善	生徒に高校に繋がる学習法（予習・授業中・復習）を体得させ、課題意識を持って自ら学習に取り組む姿勢、意欲的に物事を探究する姿勢を育成する。
	生徒の実態を踏まえ、生徒の力を最大限伸ばすために、「ハイブリッド型学習」をはじめとする「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を推進する。
	生徒の主体性重視と生徒の実態への対応を踏まえ、「わかる授業」「できる授業」の展開と的確なフォローにより、生徒個々の学習意欲を喚起させる。
自律心を涵養する生徒指導	ルールやしくみの意味についてよく考え、その理解に基づいて自らを律し、生徒相互の力によって、より良い学校生活を実現する意識と姿勢を育成する。
	協働性、探究力、コミュニケーション力の育成や、自己の役割に対する責任感の醸成につながるように、学校行事のあり方や内容について改善・充実を図る。
	生徒の主体性を重視した学校行事・部活動等を通して、生徒の自尊感情と母校愛を高め、リーダーシップと粘り強く物事にチャレンジする姿勢を育成する。
高い志を育てる進路指導	中高一貫教育校として、6年間を見通した進路指導・キャリア教育の体系的指導計画（マトリックス等）を高校と協働して策定し、継続的にその改善・充実を図る。
	英検や数学オリンピック等をはじめとする校外の試験等への積極的チャレンジを通して高い志を涵養するとともに、自己実現のための確かな実力を養成する。
	「夢に向かって」の意義等について指導を徹底し、「夢に向かって」を継続的・効果的に活用し、自らの将来の目標実現に向けた実践力を育成する。

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教育推進部	教育計画課	本校の教育目標を実現するための学習指導について研究する。	生徒に高校に繋がる学習法（予習・授業中・復習）を体得させるような学習指導について研究する。	A	A	A	生徒の個別最適な学習指導内容及び支援方法についての検討。
			生徒の実態への対応を踏まえ、「わかる授業」「できる授業」が展開できるように支援する。	A			
		「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習指導を支援する。	学年や他の分掌・教科と連携し、生徒の個別指導を支援する。	A	A		効果的な行事および総合的な学習の時間の計画の内容についての精選。
			主体性を持って粘り強く探究する生徒を育成するために、総学を中心として3年間を通した教育計画を行い、実施する。	A			
	企画庶務課	学校教育目標につながる式典やPTAの活動を企画・実施する。	中高が一体となった式典やPTA活動ができるよう、他分掌と連携する。	A	B	B	式典等のオンラインまたは対面実施についての判断基準の検討。
			行事において、オンラインの効果的活用をさらに推進する。	B			
		生徒や職員の学校生活の充実に資する活動を展開する。	教職員間との連携を深め、教育環境の充実を図る。	A	B		奨学金に関する情報を周知徹底する方策の検討。
			奨学金等の周知に努め、生徒の進路設計を支援する。	B			
	広報課	児童や保護者が本校に強い興味を抱くよう、効果的な広報活動を行う。	ホームページを各行事が実施される度に更新し、内容の更なる充実を図るとともに、本校の魅力を外部へ発信する。	B	B	A	広報業務に関わる職員の増員や業務分担。
			学校説明会および募集要項説明会の内容を充実させ、本校の魅力を保護者や児童に効果的に伝える。	A			
		学校生活や行事の様子を積極的に外部に発信する。	教員や他分掌との連携を深め、中学生が参加する行事や学年独自の活動、生徒の様子などがわかるように記録をとる。	A	A		学校案内や説明会以外でも絶え間ない広報活動ができる体制の整備。
			学校案内パンフレットや学校説明会において写真や映像等を有効に活用し、保護者や児童に学校生活や行事の様子を伝える。	A			
生徒支援部	生徒指導課	規範意識の高揚と思いやる気持ちの醸成を図る指導	自分の行動をよく考え、自らを律しつつ志を高く揚げる生徒の育成を図る。	A	A	A	校則の継続的な見直しを行う。
			相手の立場に立った好ましい言動を身につけさせる。	B			
		基本的な生活習慣の確立	元気に、明るく、さわやかな元気な挨拶ができる生徒を育成する。	A	B		明るく清々しい挨拶ができる生徒の育成。
			場に応じた立ち居振る舞いができる生徒を育成する。	B			
	保健環境課	健康への意識を持った生徒を育成するとともに、配慮を要する生徒へ速やかに対応する。	職員全体で生徒の指導状況を記録し、情報共有をする。	A	A	A	コロナ渦による様々な影響を受けた生徒への支援と健康の保持増進。
			ケース会議やいじめ・不登校対策委員会でSCに専門的アドバイスを求め、職員全体で配慮を要する生徒に対応する。	A			
		校内美化や健康管理に対し、高い意識を持って取り組む生徒を育成する。	定期的に清掃点検を行い、清掃に対してより高い意識で取り組ませる。	B	B		美化点検の有効活用等により、生徒の環境美化への意識向上。
			定期的に保健・美化各委員会を開催し、積極的な広報活動により周知、徹底を図る。	B			
進路支援部	進路指導課	外部試験の有効的な活用を模索する。	外部試験の分析結果を職員間で共有し、指導力向上につなげる。	B	B	B	希望制模試の受験者数を増やすような働きかけが必要。
			希望制模試や外部検定への積極的な受験を促し、生徒の進路意識の高揚を図る。	B			
		生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細かい進路指導を実践する。	生徒および教員に対し、「夢に向かって」の積極的な活用を促す。	B	B		生徒へ情報を提供するための講演会等が必要。
			進路に関する情報を生徒に提供し、定期的に日々の取り組みを振り返らせる。	B			
	キャリア教育課	キャリアに関する学習を主体的に行い、進路意欲の高揚を図る。	授業で学ぶことの面白さを実感し、主体的に取り組むことができる表現活動（発表活動）を行う。	B	B	B	進路への意欲を高めるために高校や卒業生との連携を図る計画が必要。
			地域や高校等との連携事業を積極的に行い、社会で役立つ幅広い教養と高い知識を養う。	B			
		体験活動での学びを、自己の生き方に対する考えや社会生活に必要な能力等の観点からまとめ、進路選択の充実を図る。	3年間を通して体験活動を行い、その学びをグループや個人でまとめ、表現活動（発表活動）を実施する。	B	B		3年間を見通した体験学習の計画の充実。
			キャリアパスポートの効果的な活用方法について研究を進める。	B			
研究開発部	研修課	教育改革に伴う変化に的確に対応するために職員研修の充実と精選を図る。	生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修を企画し、実施する。	A	A	A	研修テーマに関する希望調査、他分掌との連携。
			職員研修などを通して、職員の人権感覚を高めるとともに、全教科全領域での人権・同和教育の充実を図る。	B			
		「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を推進する。	職員の資質向上に向けて、授業公開や教科内での研究討議の充実を図る。	B	A		校内外の先進的な事例に関する情報の収集と共有・発信。
			主体的な学びの促進、表現力の向上のために、ICT機器の活用と効果的利用を推進する。	A			
	図書課	生徒の主体的な学びを支援する「学習情報センター」としての機能を充実させる。	選書委員会や総探委員会と連携を取り、授業での学びを拡大深化させるための書籍の収集に努める。	B	B	B	図書課業務のICT機器の有効利用を推進するとともにそれに係る活用技術の習熟を図る。
			図書館内にある書籍・情報を積極的に紹介・案内し、探求的学びを支援する。	A			
		生徒及び文化・図書委員会の協働的な活動を促す取り組みをし、「読書センター」としての機能を強化する。	生徒及び文化・図書委員会の活動や成果物を積極的に発表・評価し、主体的な読書活動を奨励する。	A	B		時制や学校行事の変更を考慮した、特定の生徒だけでなく、多くの生徒が来館するような図書館行事の工夫をする。
			各図書館行事を通して、生徒及び文化・図書委員会の協働的な学びの機会を有意義なものとする。	B			
学年部	第1学年	基本的な生活習慣の確立と、集団の一員として規範意識の高揚を図る。	「夢に向かって」の活用を通して、中学生として好ましい生活習慣を確立させる。	A	A	B	学習習慣の定着と基本的な生活習慣を確立させる。
			新しい集団生活に早く慣れさせ、規則を守ることの必要性を理解させる。	B			
		自ら主体的に活動することのできる資質と能力を育成する。	自らの課題に気づき、主体的に解決する能力を培わせる。	B	B		学校行事に意欲的に参加し、協働の大切さを理解させる。
			学校行事に意欲的に参加し、協働の大切さを理解させる。	A			
	第2学年	中堅学年として、主体的に行動する態度を育成する。	日々の生活や行事を通して規範意識を高め、他者を思いやる心を持つ生徒の育成を目指す。	B	B	B	道徳や人権学習で他者を思いやる機会を多く設ける。
			企業訪問や職業調べを通して、社会の中の様々な課題に気づかせ自ら解決しようとする姿勢を養う。	A			
		将来の夢に向かって志を高く持ち、学習習慣の定着を図る。	総合的な学習の時間を通して、職業についての理解を深め高校・大学につながる学習意欲を高める。	A	A		高校進学を見据えた家庭学習習慣の確立。
			「夢に向かって」を活用し、学習習慣の定着を図る。	B			
	第3学年	進路目標の明確化と具現化に向けた学習習慣の確立を図る。	面談や「夢に向かって」の有効活用により、進むべき道を明らかにしていく。	A	A	A	課題や家庭での学習習慣を付けるための方策を検討。
			課題や家庭学習などの徹底を図るとともに個に応じた組織的な指導により、学力の向上を図る。	A			
		学校行事を通じて、主体的に行動する態度を育成する。	修学旅行の主体的な計画・立案により、リーダーの養成と協働性を育成する。	A	A		学校行事でのリーダー性やチャレンジ精神の育成機会を効果的に計画。
			中学校最高学年として、行事成功に向けチャレンジ精神を育成する。	A			
学校いじめ防止基本方針		全職員の共通理解のもと、組織的にいじめを生まない学校風土作りを推進する。	個人面談・教育相談を定期的・計画的に行い、関係職員で連携し課題解決に臨む。	A	A	A	学校いじめ基本方針に則り、職員・生徒・保護者の共通理解のもと、いじめ問題への取り組みを進めていく。
			定期的なアンケートを実施し、日常的に生徒の行動の様子を把握する。	A			
		いじめ・不登校対策委員会で定期的に取組を検討・改善する。	校内研修により職員の共通理解を図り、スクールカウンセラー等専門家の意見を交え、担任や職員全体への助言などを行うよう努める。	A	A		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・日常の授業でタブレットが教科書やワークブック等と同じような活用ができるようになった。今後も日常的に活用していきながら個別最適な学習支援の改善に努めていく。
・中高一貫教育校として6年間を見通した体験活動等を積極的に取り入れ、本校の特色を明確にしていく。
・学力向上に向けた、授業改善を常に行い、生徒が主体となり、理解を深めていく授業改善を進めていく。
・本校の特色をHPや地域活動に参加する中で、学校の様子や生徒の成果を発信する取り組みを継続的に行っていく。

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	○教育計画課の成果に校務支援システムを利用しマニュアルを見直し、職員個別の研修を行った事や、各係の努力があった事で各種業務が滞りなく行えたことを評価する。 ○コロナ禍において、オンラインを効果的活用し、各行事を行えたことを評価する。 ○広報課の成果に学校説明会における生徒発表を含め、生徒の姿を見せられた事で、児童や保護者の関心が高まったことを評価する。 ○宗中に対する興味・関心は高まっていると思われるので、情報は、ホットに、アップデートにもスピードに努めて欲しい。
A	○環境美化は、目的やねらいをしっかり説明しマンネリ化を避け、ひとつひとつの行動を意味あるものに清掃を行って欲しい。 ○生徒指導については、他校では味わえない高校生徒会と一緒に活動できることで、日頃から高校生の姿を規範にでき、中高一体感を持った活動ができていることを評価する。 ○校則に関しては、現状見直しの世論であるが、これからも学校と生徒側が共に話し合いながら見直していくことを望む。
A	○オンラインと対面の基準は難しいと思うが、コロナ禍で成果は出ていると思われる。基準を策定して欲しい ○キャリア教育課の成果に、各学年に合わせた課題に取り組み、グループや個人での表現活動の場を設定できたことは評価できる。 ○外部模試は大学受験への参考となるものか、受検するメリットの説明が必要。 ○進路検討の機会を早くから設けることが中高一貫の良さと考える。
A	○今後の読書を考えると紙からデータへ変換している。「電子図書館」も将来的に考えてみてはよいのではないか。 ○授業のハイブリット化が進み、Chromebookや教室のモニターを活用しながら対面とオンラインでの授業が進んでいることを評価する。 ○教員の学習機会（研修）の確保が必要。
A	○将来スタートアップできる人材を育成して欲しい。 ○中学1年の成果に「夢に向かって」により、生徒の状況の把握ができたとあるが、毎日書くことの習慣になってきていると考える。 ○中学生は、心の成長が一番さかんである。他者を思いやる心は生きていく上で必須である。 ○中高一貫ということでだらけることなく学習習慣の定着を図ることが必要。中学3年生のリーダーシップを発揮できる場作りが必要。
A	○いじめ問題には、組織的に対応することを今後もお願いしたい。 ○生徒の様子を把握するために、コミュニケーションを大切にして欲しい。

評価項目以外のものに関する意見

○いつも生徒への思いのこもった運営をありがとうございます。誰一人取りのこされることのない様、温かい宗中でありますよう祈っております。
○広報を行う対象を明確化し、伝えたい相手に伝えたい工夫をお願いします。